

# フィットネスマシン(筋力トレーニングマシン)及び 附属のアタッチメントの開発

## 記念事業で新たな挑戦

外構門扉やフェンス、門灯などの鍛造製品のデザイン・設計・製作など、製缶業を主力事業とする株式会社エスピー工研。

同社が80周年を迎えた際、社内で金属を使い新たな物を生み出したいと様々なアイデアを出した。そのとき、製造部課長の出口晃生さんがトレーニング器具の開発を提案した。元々筋力トレーニングが趣味だという出口さんは、ジムに行ったり、公共施設を利用したりする際、トレーニング器具の機能性など

に不満を抱えていたという。自身のものづくりの知識と経験から、「オリジナルのトレーニング器具を開発してみたい」と社内で提案を行い、新事業として本事業を活用し、プロダクトデザイナーを派遣してもらい、製作を始めた。

製造は得意とする同社だが、商品として販売した経験には乏しかった。実際にプロダクトデザイナーの助力もあり、ブランディングの方向性や機能性、マーケティングなどについてのアドバイスを、月に1回のミーティングで受けたという。

## 試行錯誤で辿り着いた理想の“商品”

数回のブラッシュアップを行い、完成したのが「スミマシン 超剛筋(ちょうこうきん)」。他社分析などを行い、約半年間、試作や改良を重ねた。

同製品の特徴は3つ。1つ目は細かく範囲設定ができること。他社製品のスミマシンとできるトレーニングに大きな差はない。しかし、一般的な100ミリ単位での高さ調整が、同製品は50ミリ単位。わずか50ミリだが使用者にとってはこの差が大きいという。これによってトレーニング時のロスを減らし、効率を上げられる。2つ目は可動式の懸垂グリップ。固定式の懸垂バーに代わり可動式器具を使用することで体格に合わせて使える他、関節への負担を軽減できる。3つ目は北海道で製造していること。海外製の製品が多いトレーニングマシンは故障すると部品の取り寄せに時間がかかる。北海道で製造しているのですぐに対応できる。

販売にあたり、まずは学校関係への納入を目指す。モニター調査の上、さらに改良を加えていく予定だ。

企業の声



営業  
川筋 晃

製造部課長  
出口 晃生

### 得手不得手が明確になった 物作りのサポート

ブランディングやマーケティングについて、プロダクトデザイナーからアドバイスももらえたことで、安心して物作りができました。



北海道発のスミマシン「超剛筋」。コンパクトな設置スペースにも注目を



トレーニングのロスを減らせる50ミリ単位での高さ調整



体格に合わせた調整機能で老若男女問わず使いやすい

## 金属加工技能を活かしたモノづくり

鉄(金属)に生命を吹き込み、人々に愛され役立つ物作りをしている。顧客に認められる物作り、品質向上に努力し、社会貢献する。

## 株式会社 エスピー工研

札幌市西区発寒17条14丁目1番38号  
TEL 011-662-4131  
<http://www.spkoken.co.jp/>

設立 昭和15年11月  
従業員数 22名  
代表者 三箇 将夫

